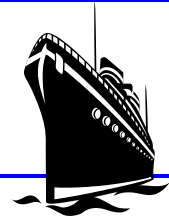


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



機雷の処理について

終戦記念日を間近に控えた8月13日、関門海峡の東側入口に近い下関市沖の海中で、太平洋戦争末期に米軍の爆撃機が投下した機雷の爆破処理が行われました。爆発時の高さ100メートルを超える巨大な水柱の映像は衝撃的でした。本稿ではこのニュースに関連して、機雷処理の現状と海上保険との関連について取り上げます。

1. 機雷について

戦後68年を過ぎた現在でも、陸上・海中共に、不発弾や残存機雷は全国各地で発見されており、このうち海中の機雷には、船体に直接触れて爆発する触発機雷と、船体の音や磁気等に反応する感応機雷の主に二種類があります。

第二次世界大戦中、日本の周辺海域には日本海軍の触発機雷が約55,000個、米軍の感応機雷が約11,000個、合計約66,000個もの機雷が敷設されたと言われています。

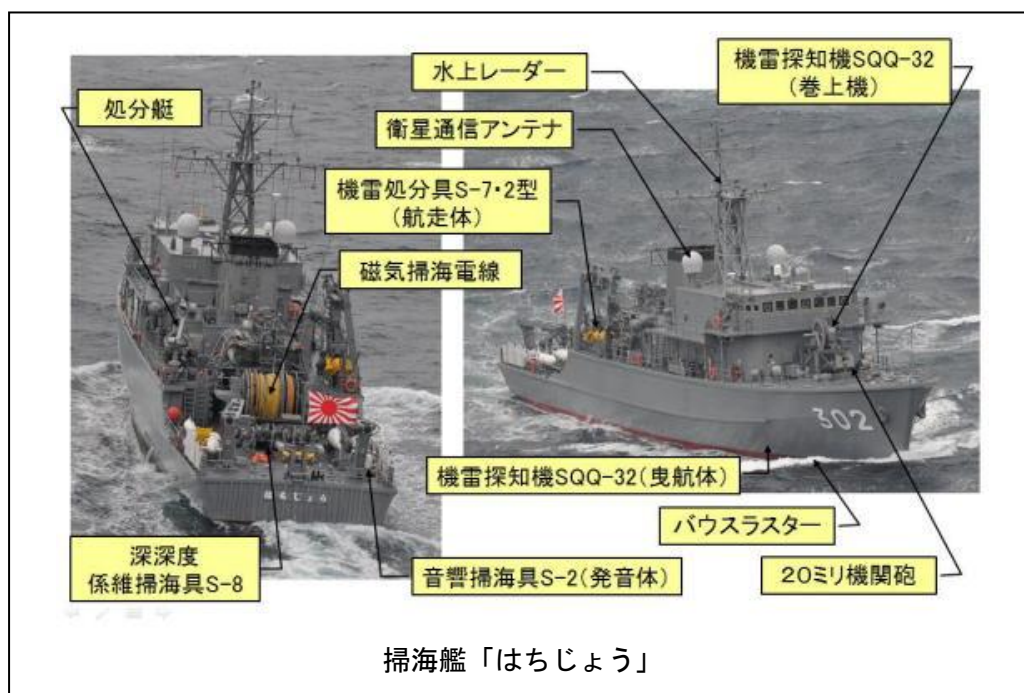
2. 機雷の処理状況

陸上の不発弾の処理は陸上自衛隊が地方公共団体などの要請を受けてその処理に当たっていますが、海中の機雷は海上自衛隊の掃海（そうかい）隊が行っています。

機雷の掃海とは、掃海具を使用して敷設された機雷を処分する、または機雷の危険がないことを確認することを言います。

海上自衛隊は、危険海域の掃海を行ってきた結果、危険海域にあった機雷の掃海はおおむね終了（約99%完了）したものの、未だに毎年何個かは機雷が発見され、その処理を行っている現状にあります。

（2013年度時点の過去5年間の機雷の処理実績は平均個数1.4個／年、平均重量1.00トン／年）



3. 掃海の方法

掃海には、係維掃海と複合掃海の2種類があります。

係維掃海は、艦尾から曳航する掃海具に Cutter を取り付け、機雷を水中に係維している索を切断し浮上させ、機関砲等で処分します。

複合掃海は、音を出さず機械や曳航するケーブルに電流を流し、磁気を発生させる装置を併用して機雷に船が通過したように誤認識させて爆発処分します。

4. 船舶保険との関係

船舶保険では、機雷との接触等による損害は危険の予測が著しく困難なため「戦争危険」の一つとして取り扱われ、通常の普通保険約款などでは保険金のお支払いの対象となりません。別途「船舶戦争保険」もしくは「船舶水雷保険」（さまざまな戦争危険のうち水雷の爆発またはこれらとの接触の危険による損害のみを保険金のお支払いの対象とする保険）をご契約頂く必要があります。

官公庁発注工事等では、発注者である官公庁等から工事に使用する船舶に水雷保険を付保するよう義務付けられるケースがあります。

5. 貨物保険との関係

貨物保険でも船舶保険と同様、機雷との接触等による損害は「戦争危険」の一つとして取り扱われます。

貨物保険のうち「内航貨物海上保険」では、機雷との接触等による損害は補償されませんが、「外航貨物海上保険」では、戦争危険を補償する「協会戦争約款：Institute War Clauses (Cargo)」により、貨物が外航本船および外航本船に接続する艀（はしけ）に積載されている間は、補償されます。ただし、外航本船が最終荷卸港に到着後15日間を経過した場合は、補償が終了します。

<参考文献一覧>

防衛省・自衛隊「平成25年版 防衛白書」

海上自衛隊掃海隊群HP <http://www.mod.go.jp/msdf/mf/>

日本経済新聞夕刊 2013年8月13日

以上